

南相馬市障害福祉サービス職員実態調査報告書

震災から6年が過ぎました。いまだ福島県南相馬では、原発事故の終息の方向が状況の中、2016年7月には小高地区の避難解除がされましたが、2017年3月末時点でも以前の人口の約1割しか住民は、戻ってきていません。

南相馬市全体でも若い人たちの流出は、深刻な状況です。

そうした中で、南相馬市では震災直後から障害分野では、いち早く日中事業の再開が全国からの支援も受けつつ取り組まれてきました。

現在では、日中事業所利用者数は震災前の状況に近づきつつあります。しかし、利用者の支援を支える職員確保は、震災前には、現場を中心に回っていた経験ある職員たちの多くが南相馬市外に避難していく深刻な状況となりました。その多くの人たちが小さい子供を抱えている職員たちでした。

現場の状況が大きく変わる中で、障害のある人たちの暮らしを守り、日中の場の確保とニーズに応えた支援を進めていくために並々ならぬ献身的な努力が続けてこられました。

しかし、職員一人一人の献身性だけに頼っていくことには、限界に近づいており、将来が見通せない状況にもなりつつあります。

今回、職員の状況、特に生活保障につながる身分保障に焦点を合わせた緊急調査を実施しました。

この調査で、南相馬での障害福祉サービスを支えている職員の劣悪な身分保障が明らかになりました。この問題の解決抜きには、南相馬市の障害福祉の未来は見えてきません。国・県・市が一緒になって、この問題解決を正面に据えていくことが緊急に求められています。

この現状を一人でも多くの方々に知っていただき、問題解決の糸口につなげていくためにこの報告書を作成しました。

2017年5月

きょうされん南相馬支援チーム

調査目的：震災後から献身的に障害のある人の暮らしや仕事を支えてきた障害福祉サービス職員の労働環境の実態を把握し、問題点を整理し、今後も長く福祉サービスを支えていくための従事者の身分保障の改善の方向を考える。

対象者：NPOほっと悠・NPO希望の家あさがお・NPOひばり・NPOサポートセンターぴあの職員94名

調査方法：各事業所に一括してアンケートに答えてもらい、回収した。

調査時期：2017年1月～2月

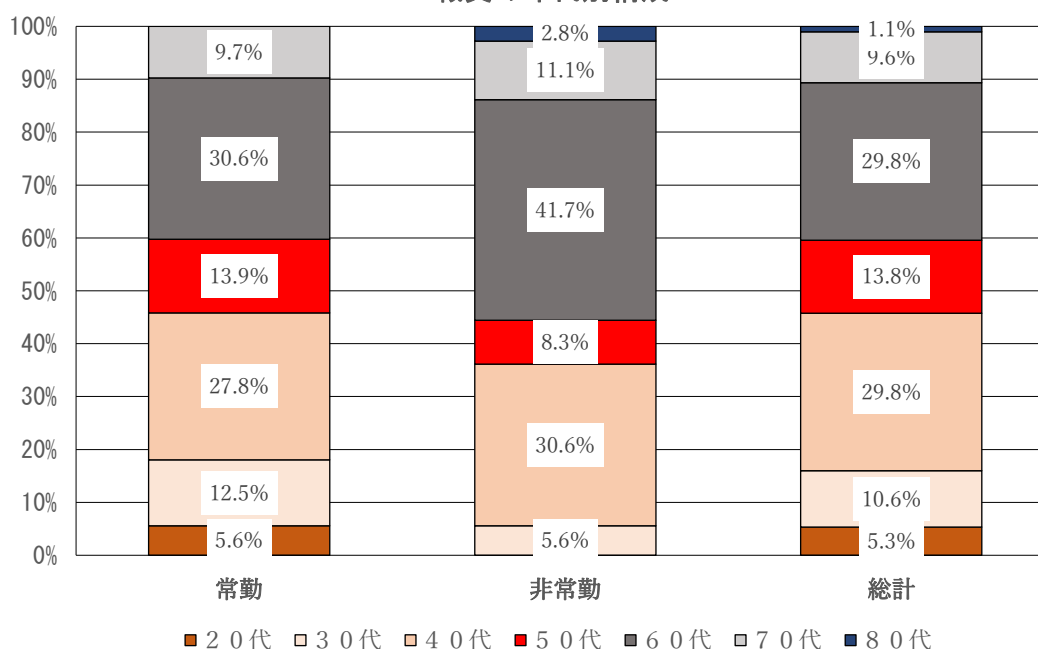
データ比較資料について：全国平均で出している数字は、「平成28年度障害福祉サービス等従事者処遇状況等調査の調査結果」の「福祉・介護職員処遇改善加算（Ⅰ）～（Ⅳ）の届出をしている施設・事業所」データから

1. 対象者について

● 年齢と性別

	常勤			非常勤			総計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
20代	5	1	4				5	1	4
30代	8	1	7	2		2	10	1	9
40代	17	6	11	11	2	9	28	8	20
50代	10	2	8	3	1	2	13	3	10
60代	13	1	12	15	5	10	28	6	22
70代	5	1	4	4	1	3	9	2	7
80代				1	1		1	1	
合計	58	12	46	36	10	26	94	22	72

職員の年代別構成



職員の年齢構成では、職員全体では、60歳以上が40.5%を占めています。

常勤職員では、31.0%を占め、非常勤となると55.6%が60歳以上で、過半数を占めています。さらに非常職員の場合、70歳以上が、13.9%を占めており、高齢の方々が、大きな戦力となっています。

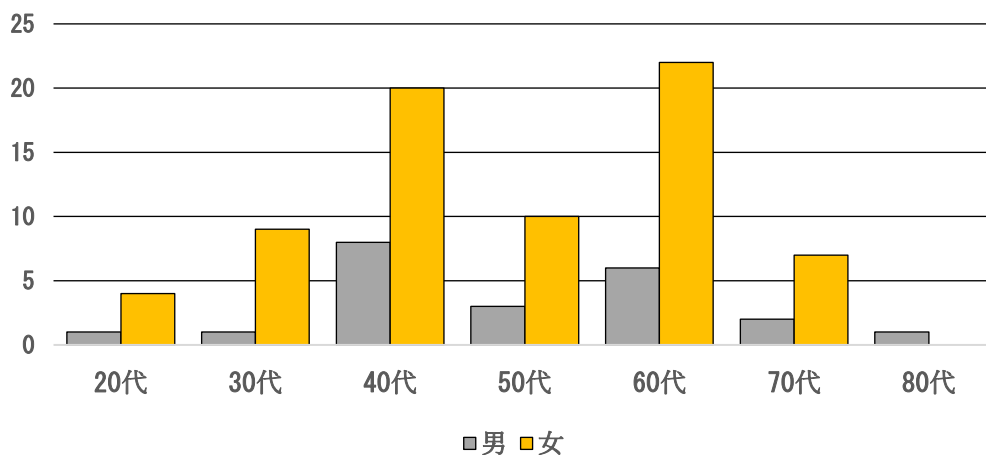
一方で、20代の若い職員は、わずか5名で、全体の5.3%しか占めておらず、20代、30代合わせても15.9%しかいません。介護分野での施設等での介護職員の年齢構成では、20代、30代合わせると全体の43.0%を占めています。(平成25年度介護労働実態調査：(財)介護労働安定センター)南相馬の事業所は介護分野の全国平均のわずか1/3の水準でしかなく、若者不足の深刻さが浮き彫りとなっています。

男女構成でみると全体で76.6%が女性です。これは、介護分野が73.0%という数字で、あまり差がみられません。

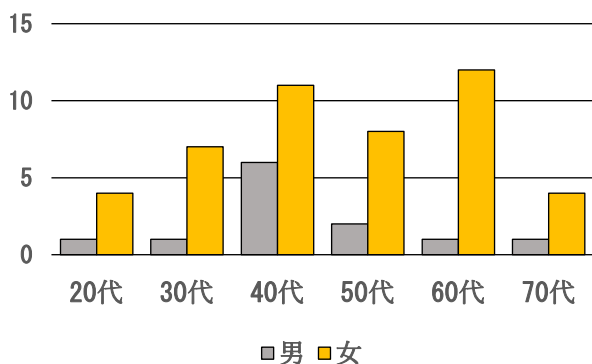
しかし、年齢層を見てみると60歳以上の常勤職員で、女性は88.9%で、男性はわずか11.1%です。

さらに20代、30代の常勤職員のうち、男性はわずか2人で、15.4%しか占めていません。

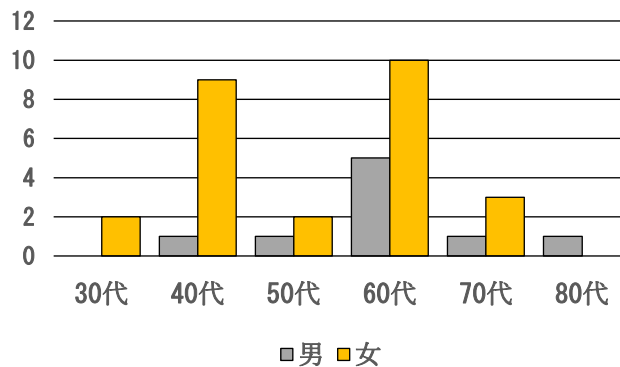
全職員の男女ごとの世代構成



常勤職員の男女ごとの世代構成



非常勤職員の男女ごとの世代構成

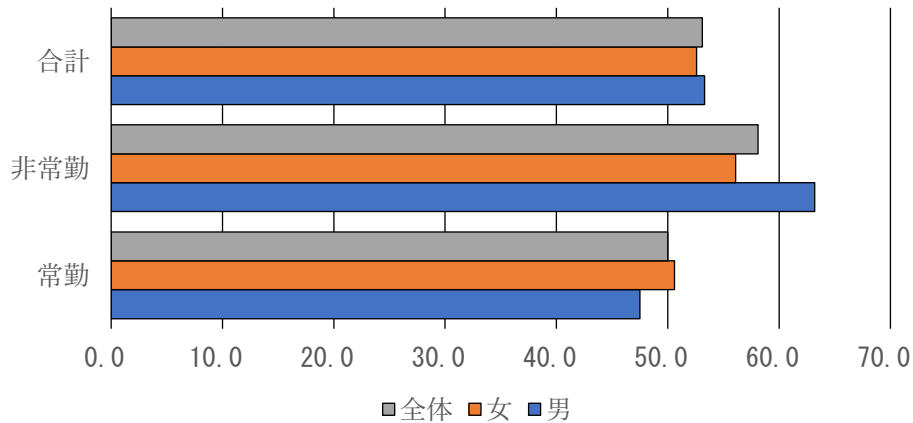


職員の平均年齢

	男	女	全体
常 勤	47.5歳	50.6歳	50.0歳
非 常 勤	63.2歳	56.1歳	58.1歳
全 体	53.3歳	52.6歳	53.1歳
*全国福祉施設常勤介護職員	35.1歳	40.5歳	38.7歳

*厚労省の「平成25年賃金構造基本統計調査」参照

就業形態別平均年齢（単位：才）



職員の平均年齢は、全体で53.1歳となり、うち男性は、53.3歳、女性は、52.6歳となっています。

常勤職員は、全体で50.0歳、男性で47.5歳、女性で50.6歳となっており、全国の福祉施設常勤介護職員と比較すると全体で14.4歳、男性で18.2歳、女性で12.1歳高い年齢となっており、南相馬の施設職員の高齢化が大きな特徴であることを物語っています。特に、常勤職員の男性では、全国平均は35.1歳と若い年齢にあるが、南相馬では47.5歳となり、中年以上の年齢となっています。

● 職種について

管理責任者	サビ管	主任	支援員	相談専門員	世話人	看護師	調理師	その他
11	9	3	40	7	9	3	5	16

2. 勤務状況について

● 日数

1日	2日	3日	4日	5日	5ないし6日	6日
1	1	3	8	50	3	26

● 1日労働時間

2時間	3時間	4時間	5時間	5.5時間	6時間	6.5時間	7時間	7.5時間	7.75時間	8時間
1	1	4	12	2	3	4	2	29	11	25

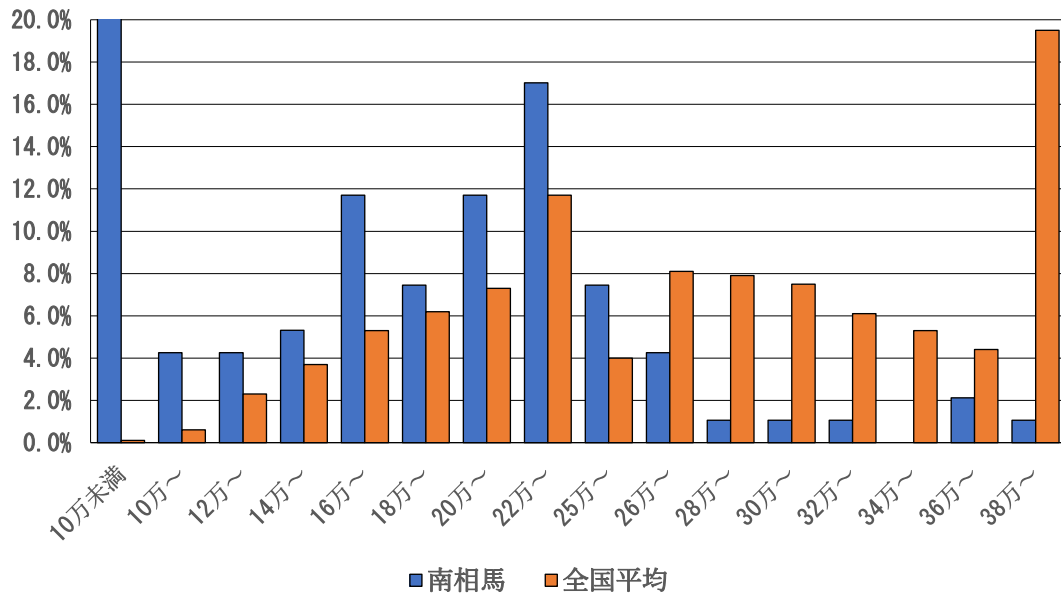
勤務日数が6日となっている人が、28.2%を占めている。職員確保が厳しい中で、職員の勤務日数をギリギリ増やし、対応している実態です。

3. 職員の身分保障

● 職員の給与水準

	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計	全国平均
10万未満	3	16	19	5.2%	44.4%	20.2%	0.1%
10万～		4	4		11.1%	4.3%	0.6%
12万～		4	4		11.1%	4.3%	2.3%
14万～	2	3	5	3.4%	8.3%	5.3%	3.7%
16万～	6	5	11	10.3%	13.9%	11.7%	5.3%
18万～	7		7	12.1%		7.4%	6.2%
20万～	10	1	11	17.2%	2.8%	11.7%	7.3%
22万～	13	3	16	22.4%	8.3%	17.0%	11.7%
24万～	7		7	12.1%		7.4%	4.0%
26万～	4		4	6.9%		4.3%	8.1%
28万～	1		1	1.7%		1.1%	7.9%
30万～	1		1	1.7%		1.1%	7.5%
32万～	1		1	1.7%		1.1%	6.1%
34万～							5.3%
36万～	2		2	3.4%		2.1%	4.4%
38万～	1		1	1.7%		1.1%	19.5%
合計	58	36	94				

常勤・非常勤平均給与額



全体の職員の平均給与額は、20万円未満は53.2%を占めています。全国平均では、25.5%となり、南相馬はその2倍を占めています。一方で、28万円以上となると全国平均では、50.7%を占めていますが、南相馬は6.5%と極めて低い数字となっています。南相馬の常勤職員をとってみても10.2%と同じ低い水準です。

● 職員の平均年収

平成27年処遇改善加算届け出している事業所全職員

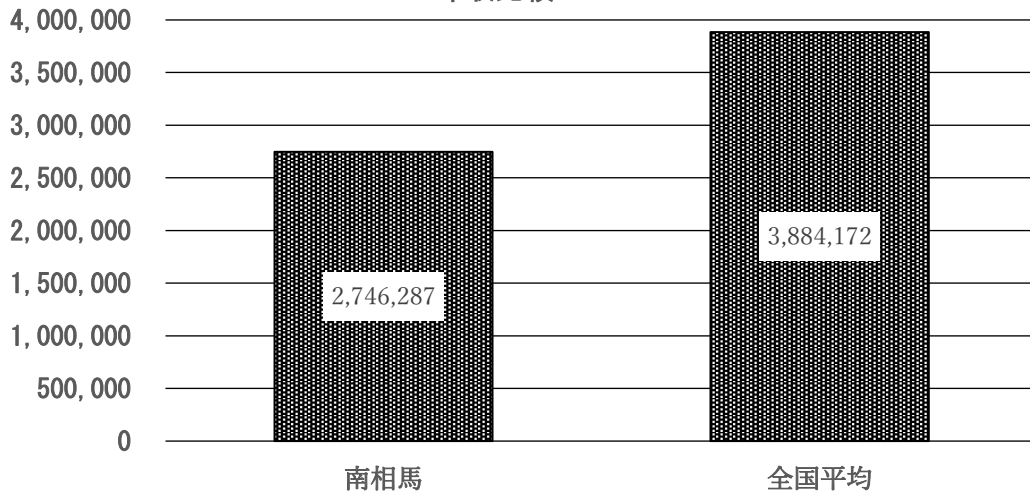
3,621,096円

南相馬常勤職員年収平均

2,746,287円

* 全国平均の0.75倍

年収比較

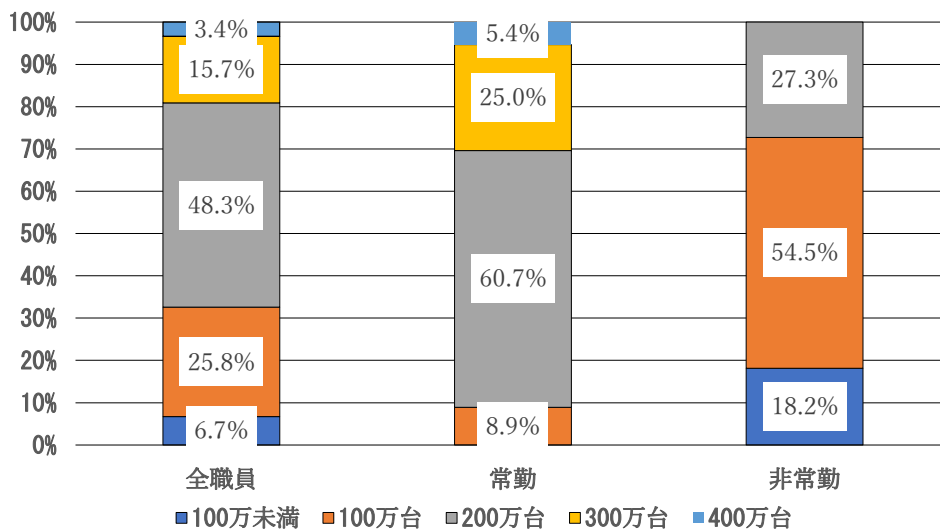


* 全国平均は、平成27年処遇改善加算届け出をしている事業所全職員

職員の年収

	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計
100万未満		6	6		18.2%	6.7%
200万未満	5	18	23	8.9%	54.5%	25.8%
300万未満	34	9	43	60.7%	27.3%	48.3%
400万未満	14		14	25.0%		15.7%
400万以上	3		3	5.4%		3.4%
	56	33	89			

職員年収の内訳



常勤職員の平均年収は、274万円と300万円を超えておらず極めて低い水準であり、全国平均362万円より88万円も少ない状況です。

300万円未満の職員は、全体の69.6%を占めています。反対に400万円以上の職員は、わずか5.4%しかいません。

● 経験年数

	常勤	非常勤	合計
1年未満	3	1	4
1～3年未満	14	13	27
3～5年未満	9		9
5～7年未満	7	10	17
7～10年未満	11	6	17
10～15年未満	7	2	9
15年以上	5	1	6

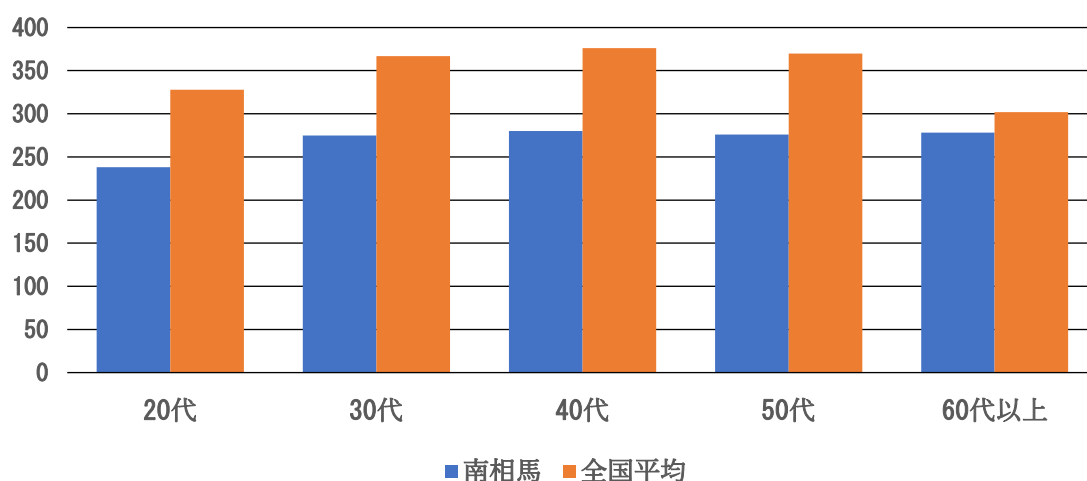
● 賞与について

	常勤	非常勤	合計
なし	1		1
0～1か月未満			
1～2か月未満	15	18	33
2～3か月未満	9	6	15
3～4か月未満			
4～5か月未満	12		12
5か月～	21	11	32

● 常勤職員の年代ごと年収

	100万台	200万台	300万台	400万台	平均年収	全国平均
20代	1	3	1		238万	328万
30代		5	3		275万	367万
40代	1	8	8		280万	376万
50代	1	6	1	1	276万	370万
60代以上	2	12	1	2	278万	302万

常勤職員の年代ごと年収（単位：万円）



3～5年未満		6	3		278万
5～7年未満	1	4	2		267万
7～10年未満		8	3		254万
10～15年未満		4	2	1	313万
15年以上		2	1	2	367万

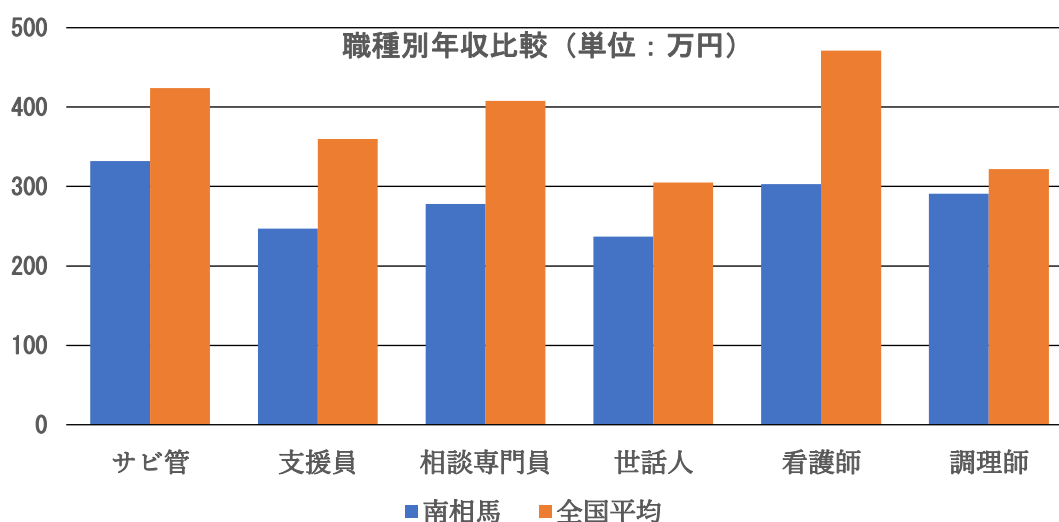
● 常勤職員の経験年数ごと年収

年代ごとの平均年収は、20代では全国平均より90万円低い238万円と非常に低い金額となります。30代では、92万円低い275万円です。最も年収が多い40代では、96万円低い280万円となっており、いずれの年代でも300万円を超えていない状況です。

● 常勤職員の職種別年収

	100万台	200万台	300万台	400万台	平均年入	全国平均
管理責任者	1	2	6	2	328万	
サビ管		3	5	1	332万	424万
主任		2	1		275万	
支援員	2	21	1		247万	360万
相談専門員	1	3	2	1	278万	408万
世話人	1	4			237万	305万
看護師			1		303万	471万
調理師		1	1		291万	322万
その他		1	1		290万	

*全国平均は、平成27年に処遇改善加算の届出している施設・事業所の調査結果より職種別の従事者の平均給与額×12か月



職種別の常勤職員の平均年収は、サビ管では全国平均より92万円低い332万円。支援員では、全国平均より113万円も低い247万円です。

まとめ

原発事故で様変わりした障害福祉事業所現場！

今回の調査では、障害福祉サービス事業所職員の常勤・非常勤を合わせた全体の平均年齢は、53.1歳でした。常勤職員でも50.0歳で、全国福祉施設常勤介護職員の平均38.7歳と比べると年齢の高さが特質されます。

また、一番平均年齢の高い層は、男性の非常勤職員で63.2歳となっています。

さらに職員全体では、60歳以上が40.5%を占めており、南相馬では、年齢の高い方々が中心の現場とならざるを得ない状況です。

逆に若い職員層では、20代30代合わせても全体の15.9%しか占めていません。全国の介護分野での施設等の介護職員では、43.0%であり、南相馬の障害福祉分野でも若者不足は、深刻な状況となっています。将来を考えると憂慮される状況にあります。

ギリギリの身分保障！

さらに働いている職員の身分保障も非常に厳しい状況に置かれています。

常勤職員の平均年収は、南相馬では約274万円で、300万円にも到達していません。全国平均（H27年処遇改善加算届け出している事業所全職員）では、約362万円となり、88万円も低い水準です。

その内容をさらに細かく見てみると南相馬の全体職員の平均給与で、20万未満は、53.2%と半数を超えています。全国では、その半分の25.5%となっています。

逆に28万円以上となると全国では、50.7%を占めますが、南相馬では、6.5%と極めて低い実態です。

常勤職員の年代ごとをみても20代では、238万円。30代で275万円と300万円にも届いていません。とても若い職員を雇える実態ではありません。また、この状況をそのままにしておくといつまで続けていくことができるのか、

このままにしておけない緊急課題。

今回の調査であきらかになった職員の状況は、このままにしておくことはできません。特に職員の給与改善は、なにより優先されるべきことです。